

循環可能ごみ箱万博採用

県産の未利用木竹材加工

那賀ウッドなど提案

阿南市の竹や那賀町の木頭杉を加工して作られたごみ箱が、2025年大阪・関西万博の会場で使われる。地元木材の6次産業化に取り組む那賀ウッド(那賀町)が参加する企業グループが、環境に配慮した商品開発などのプロジェクトを提案し、万博の特別プログラム事業に選ばれた。



那賀ウッドが加工した木竹材を利用したごみ箱(同社提供)

期間中 林業体験ツアー企画

ヨンエンジニアリング(大阪府門真市)など4社が参加している。食品包装資材専門商社の折兼(名古屋市中)が代表企業としてとりまとめを担っている。

ごみ箱(試作品)は幅24センチ、高さ28センチで、阿南市産の竹と町産の木頭杉の未利用材をパウダー化した原料で作っており、パウダーの製造を那賀ウッドが担当している。循環可能な自然素材を活用しているのが特徴。今後、日本国際博覧会協会(万博協会)の提携アドバイザーと、デザインなどの詳細を検討する。

協会によると、徳島の未利用木竹材に手を加えて商品開発し価値を見いだした点や、多様な企業連携で今後も商品展開が期待されることが評価された。

特別プログラムは協会が企画するEXPO共創事業の「Co-Design Challenge 2024」。万博を契機に、循環可能な商品の開発や地域への誘客を狙いとする。全国から37の応募があり、那賀ウッドが参加する企業グループのプロジェクトを含む11事業が選ばれた。

那賀ウッドは25年4月13日～10月13日の万博期間中、那賀町で木製ボードを使ったスタンド・アップ・パドルボード(SUP)や林業の体験ツアーを数回実施することも提案した。庄野洋平副社長は「万博をきっかけに多くの人が徳島を訪れてほしい。山の良さや林業の魅力もPRしたい」と意気込んでいる。

(夏目潤)

循環可能なごみ箱を大阪万博採用 那賀ウッドなど提案 徳島県産の未利用木竹材加工 期間中、林業体験ツアー企画

2024/07/03 05:00



那賀ウッドが加工した木竹材を利用したごみ箱(同社提供)

[写真一覧を見る](#)

阿南市の竹や那賀町の木頭杉を加工して作られたごみ箱が、2025年大阪・関西万博の会場で使われる。地元木材の6次産業化に取り組む那賀ウッド(那賀町)が参加する企業グループが、環境に配慮した商品開発などのプロジェクトを提案し、万博の特別プログラム事業に選ばれた。

企業グループには、那賀ウッドのほか、樹脂製品などの製造を手がけるパナソニックプロダクションエンジニアリング(大阪府門真市)など4社が参加している。食品包装資材専門商社の折兼(名古屋市)が代表企業としてとりまとめを担っている。

ごみ箱(試作品)は幅24センチ、高さ28センチで、阿南市産の竹と町産の木頭杉の未利用材をパウダー化した原料で作っており、パウダーの製造を那賀ウッドが担当している。循環可能な自然素材を活用しているのが特徴。今後、日本国際博覧会協会(万博協会)の提携アドバイザーと、デザインなどの詳細を検討する。

協会によると、徳島の未利用木竹材に手を加えて商品開発し価値を見いだした点や、多様な企業連携で今後も商品展開が期待されることが評価された。

特別プログラムは協会が企画するEXPO共創事業の「Co-Design Challenge 2024」。万博を契機に、循環可能な商品の開発や地域への誘客を狙いとする。全国から37の応募があり、那賀ウッドが参加する企業グループのプロジェクトを含む11事業が選ばれた。

那賀ウッドは25年4月13日～10月13日の万博期間中、那賀町で木製ボードを使ったスタンド・アップ・パドルボード(SUP)や林業の体験ツアーを数回実施することも提案した。庄野洋平副社長は「万博をきっかけに、多くの人が徳島を訪れてほしい。山の良さや林業の魅力もPRしたい」と意気込んでいる。